The Japan Society of Plasma Science and Nuclear Fusion Research

核融合50周年記念

「我が国における核融合の歴史と将来展望」

巻 頭 言

1950年代に手探りの段階から開始されたわが国の核融合研究開発は，国際協力によるITERへの参加へと展開し，その建設活動が始まりました．さらに日欧の協力により，ITERの先の原型炉に向けた研究開発が幅広いアプローチ計画として開始されました．核融合研究開発は大きな転換期にあると言えましょう．

時まさに当学会は，本年（平成20年）その前身である核融合懇談会（初代会長：湯川秀樹先生）発足から50周年を迎えます．また，本年は当学会としても設立されてから25周年にあたります．核融合は先人達から引き継がれ，蓄積された知見を基に，今大きなステップを刻もうとしていますが，個々の研究者や技術者が半世紀の時間スケールの中で，核融合エネルギーの実現に向けて確かな役割を果たし，人類のために貢献することができれば，研究者・技術者冥利に尽きるものと思います．そのためには各自が行う活動の意義や位置づけをしっかりと理解することが重要ですが，世代を越えての核融合科学の展開やブレークスルーの流れを知り，研究開発全体を俯瞰することは必ずしも容易ではありません．

核融合50周年のこの節目に企画した本特集号は，日本におけるこれまでの核融合研究の発展の歴史を纏め，それを振り返りながら，現状と将来展望についての議論を喚起すること，そして，会員各自がそれぞれの活動の意義と位置づけを確認し，今後の活躍に資することを目的として，発案されました．今日ここにプラズマ・核融合学会誌別冊として特集号を発刊することができたことは望外の喜びです．

2008年10月

プラズマ・核融合学会会長　　松　田　慎三郎
前 プラズマ・核融合学会会長　　高　村　秀　一

NII-Electronic Library Service